

- ④ 教育最前線「第36回ゼミナール大会」
- ⑥ キャンパス・スポット「岐経祭'08」
- ⑦ 学びのフィールドを広げて「ゼミ旅行レポート」
- ⑧ 交流の輪を広げよう
「海外語学研修」「異文化体験事業」
- ⑩ 研究室だより
- ⑪ 社会に出ても学び続けて
- ⑫ 私たちの全力投球紹介します
- ⑭ 輝け！アスリートたち
- ⑯ キャリア支援課だより
- ⑳ キャンパス彩々
- ㉒ あなたの学び、応援します
- ㉔ 資格講座
- ㉔ 安定した経済生活を支援します



【特集】②

谷江幸雄新学長に聞く 「ゼミ教育 日本一をめざす」



前学長の任期満了に伴い、2009年2月1日から
谷江幸雄学長が誕生しました。

大学を取り巻く厳しい環境のなか、どのような学生を育てるのか、
そのために、どのような教育に取り組むのか。
岐阜経済大学の未来に向けての
舵取りの抱負を語っていただきました。

1948年生まれ。慶應義塾大学
大学院経済学研究科博士課程単
位取得、経済学博士。
1978年本学就任、1988年本
学経済学部教授。1999年2月
から2003年11月まで本学経
済学部長併任。専門は比較制度
分析、ドイツ・EU経済、農業経済。

特集

谷江幸雄新学長に聞く 「ゼミ教育 日本一をめざす」

体験学習を出発点とした教育体系を構築していきたいと考えています。

——学長就任にあたっての抱負をお聞かせください。

本学は、1967年に、将来の中部圏の経済を担い、社会の中堅として活躍する人材の育成をという地元大垣市を中心とする自治体、経済界および教育界の熱い要望のもと、岐阜県における初の社会科学系大学として誕生しました。まさしく本学は、地域社会と協働で「地域に有為な人材を輩出すること」を大きな使命として、これまで地元岐阜県をはじめ、東海地方を中心に2万2千人を超える卒業生を輩出してきました。

8年後の創立50周年には、市民とともに歩む「市民立大学」として、存在感のある大学をめざしたいと考えています。

——具体的にどのような教育をめざしますか。

まず第一に、私は「ゼミ教育日本一の大学」をめざすという目標を掲げたいと思います。1年次から4年次までの一貫したゼミ教育とその実践の集大成としての「学内ゼミナール大会」と「卒業論文発表会」の開催は、日本一を名乗るに値すると思うからです。毎年12月に開催しているゼミナール大会は今年度で36年目を迎え、33ゼミ、39チームが参加して大きな盛り上がりを見せました。また今年2月には経済学部4年生の卒業論文発表会が開催され、109名の学生たちが大学で修得した専門的知識の総仕上げとして卒論を発表しました。こうした全学ぐるみ、あるいは学部ぐるみで学生の研究発表会を行っている大学はほとんどありません。全学で取り組むことにより、教員同士その教育実践の経験や成果を共有できますし、互いに刺激しあうなかで学生同士の連帯感も高まります。第二に、新たに大学に迎えた学生には、体験学習を中心とした導入教育を充実させたいと思っています。理論を学び、応用力を身につけてから実践するという方法もありますが、逆に実際に体験させ、問題意識をもたせてから応用

理論へと進めていくほうが教育効果は高いと思います。本学はこれまでフィールド教育を重視してきましたが、今後一層、体験学習を出発点とした教育体系を構築していきたいと考えています。

私は、これまで15年来、演習ゼミの学生を連れて毎年、ヨーロッパに調査旅行に出かけています。異文化に触れることは若い学生にとって大きな刺激になりますし、現地の学生や市民と交流するなかで自己形成に必要な「何か」をつかんでくれます。こうした私自身の経験から、新入生の段階から地域に飛び出す、あるいは海外に飛び出す体験の機会を提供したいと思っています。昨秋、経済学部では基礎演習のクラスを対象に徳山タムの見学を実施しましたが、こういった取り組みを新入生全員を対象にフレッシュマン・エクスカージョンとして、今年4月には実施する予定です。

——どのような学生を育てていきたいですか。

本学の建学の精神・教育理念の一つは「全人教育」です。ここには、まごごと全体としての人間教育が息づいています。専門知識だけに留まることのない、幅広い教養と豊かな人間性をもった学生を育てていきたいですね。また「コミュニケーション力、プレゼンテーション力など、社会で求められる力も確実に身につけさせたいと思っています。学生との対話を図りやすい小規模大学のよさを大いに活かし、学生一人ひとりの個性を尊重しながら、良いところを伸ばし、地域社会の求める有為な人材を育てたいと考えています。

——大学を取り巻く環境が厳しいなか、教学のトップとしてどのように舵取りをされますか。

こうした時代においては、現状維持は退歩を意味します。古い習慣、固定観念等を捨て、高い志と自由な発想にもとづいて、大学の改革のための種々の提案をして、合意の得られた提案はスピーディに実行していきたいと思っています。私一人は微力ではありますが、教職員の皆様のご協力をいただきながら、魅力ある大学づくりに全力を挙げ取り組んでいきたいと思っています。

——最後に、学生へのメッセージを。

私たちが学生の皆さんに言いたいことはただ一つ、入学後1日も早く自分のやりたいテーマをみつけて、それに打ち込んでほしいということです。たとえば、外国語をマスターして、本学が提携しているハワイ大学や上海財経大学に留学する。他国の異なった文化のもとで勉強するというのは、若い皆さんにとって大きな刺激になります。また、簿記、情報処理技術者、社会福祉士、教職などの資格取得をめざすこともいいでしょう。本学はいろいろなキャリア支援の体制が充実しています。また、スポーツなどサークル活動、地域ボランティア活動に打ち込むのもいいでしょう。これらの諸活動も皆さんを大きく成長させてくれます。岐阜経済大学で私たちと出会い、学びつつ、自分のテーマをみつけることができるよう、共に歩んでいきましょう。



▲学生たちと談笑する谷江学長

優秀ゼミに 選ばれたチーム



●神谷ゼミB
「寒田丈太郎先生のハードル実践の分析」



●佐藤(俊)ゼミ
「信用金庫の現状について」



●井戸ゼミ
「JSPを用いた『みんなのナンバーワン』決定システムの開発」



●岸ゼミA
「大学女性アスリートの心身の諸問題について」



●樋下田ゼミ
「ボランティア活動を通して地域福祉のおもしろさを考える」

第36回ゼミナール大会

過去最高の参加ゼミで成功裏に終わる

ゼミナール大会実行委員長
スポーツ経営学科2年 夏目 勇希

12月3日に「ゼミナール大会」が開催されました。これは、毎年12月初旬に行われる、ゼミ単位の研究発表会で、今年度は36回を迎える伝統ある行事です。今回は過去最高の33ゼミ、39チームが参加し、大きな盛り上がりを見せました。ゼミごとに、より深く掘り下げたテーマを設定して、グループ単位で調査・研究を行い、その成果を発表することによって、共通の目標に向け協力し合い、更なる課題に向かって学習を深める契機ともなりました。

私にとって、この大学に入り2度目となったこのゼミナール大会は大きな不安と緊張がありました。ゼミの仲間と調査・発表するだけでなく、実行委員長として運営に携わる立場でも参加することになりました。ゼミ単位の大掛かりな調査だけでなく、全体のとりまとめを行うことは、私にとって大役でしたがたくさんの方々の協力により、無事乗り越えることができました。特に、論文作成にあたり助言をいただいた高橋正紀先生や、準備・運営にあたりお力添えをいただいた教務課の方々や実行委員会のスタッフ、大会当日スタッフとして司会やタイムキーパーを務めていた

いただいた学生の皆様には深く感謝しています。例年よりも倍近い数の参加があったにもかかわらず、無事に大会を終えることが出来たのはこうした皆様のご協力があったからだと思います。大会を一つの目標として調査・研究を終えた今、さらなる課題が見えてきた学生も多くなると思います。これを機にそれらの課題へ取り組んだり、この大会で得た知識や経験を今後の大学生活や就職活動に役立てたりしていただければ幸いです。



参加ゼミ名	テーマ
青柳ゼミ	近代家族とその変容
池永ゼミ	29年恐慌の再来か～世界金融危機と同時株安～
井戸ゼミ	JSPを用いた「みんなのナンバーワン」決定システムの開発
稲垣ゼミ	CSR経営戦略とは何か
猪平ゼミ	日本と中国におけるマクロ経済のシミュレーション
岩坂ゼミA	クルマ経済の変容が産業モデルに与える変化の可能性
岩坂ゼミB	日本型コンビニの光と影
宇佐見ゼミ	日本の食料自給率低下とその要因
宇野ゼミ	地球温暖化に対する取り組み
小倉(幸)ゼミA	企業の経営分析 ～ヤマダ電機・コジマ・ケースデンキから～
小倉(幸)ゼミB	建築業 一今の住宅業界一
小倉(幸)ゼミC	カップメン業界 一日清・東洋水産・加ト吉の3分間戦争一
神谷ゼミA	「誰もが楽しめるフライングディスク教室」の研究
神谷ゼミB	寒田丈太郎先生のハードル実践の分析
岸ゼミA	大学女性アスリートの心身の諸問題について
岸ゼミB	大学生アスリートの日常一競技ストレッチャー尺度と解消法一
岸ゼミC	競技者の試合前・試合時における心理状態
黒川ゼミ	スポーツ施設のマネジメントに関する一考察～サッカー施設をケースに～
斎藤ゼミA	限界集落地域の取り組み

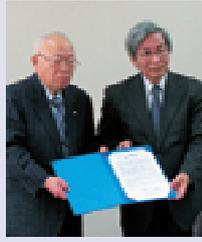
参加ゼミ名	テーマ
斎藤ゼミB	ネット通販
佐藤(俊)ゼミ	信用金庫の現状について
菅谷ゼミA	混合診療について
菅谷ゼミB	日本の年金制度に関する一考察～その必要性と他制度との整合性を中心に～
杉原ゼミ	3次元CGの作成
鈴木ゼミA	地域の安全安心を確保する
鈴木ゼミB	動物介在活動による高齢者福祉の可能性
鈴木ゼミC	「若者と性」～ピアカウンセリングという新たな手法～
高橋(正)ゼミA	世界各国のスポーツ事情
高橋(正)ゼミB	「暮らしの中にスポーツを」～大学生におけるスポーツ活性化への可能性
竹内ゼミA	高校運動部指導者の実像
竹内ゼミB	理想の体育教師像とは
竹内ゼミC	高齢者のスポーツトレーニングとその可能性
谷江ゼミ	石油・ガスとロシア経済
新家ゼミ	「笑う」と言う事がもたらす効果
野松ゼミ	日本経済の主役は中小企業
樋下田ゼミ	ボランティア活動を通して地域福祉のおもしろさを考える
福地ゼミ	小学生を対象とした遊びとレクリエーションに関する支援活動と実態調査
森ゼミ	彦根市と近江八幡市の街づくり一観光の視点からの比較一
山田(武)ゼミ	高齢者のいま一生活の現状と課題一

大垣市社会福祉協議会と連携協定を締結

「誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりを推進すること」を使命として掲げる大垣市社会福祉協議会と、「地域に有為な人材を輩出すること」を教育理念として掲げ、地域社会に貢献することを以って教育研究の振興をめざす岐阜経済大学は、大垣市地域の福祉の充実・発展を図るため、1月29日連携協定を締結しました。

●協定内容

1. **地域福祉を担う優れた人材の育成**
岐阜経済大学は、「質の高い生活が送れるコミュニティ」を創造するために、福祉の専門知識や技術並びに介護実践の専門的な臨床技術・知識を身につけ



堅い大会後、山岡学長と黒川前学長が協議内容を交わす様子(左)と、黒川前学長が協定書を受け取る様子(右)

た人材の養成」という臨床福祉コミュニティ学科の目的を具現化するため、地域(コミュニティ)福祉を担う社会福祉士及び介護福祉士の養成教育をはじめとするソーシャルワークならびにケアワークの実践教育を、大垣市社会福祉協議会の協力を得て行う。大垣市社会福祉協議会は、地域福祉実践に深い経験と学識を有する職員を岐阜経済大学に派遣して、岐阜経済大学教員との連携のもとで、地域福祉に関連した講義及び実習指導を行い、地域福祉を担う優れた人材の育成につとめる。

2. 地域の福祉課題の研究

岐阜経済大学は、研究成果について積極的に地域に還元し、大垣市社会福祉協議会の目指す「福祉のまちづくり」を推進するため、連携して地域の福祉課題の研究に取り組む。

3. 地域福祉に貢献しうる有為な人材の育成

岐阜経済大学と大垣市社会福祉協議会は、ボランティア等の学生の地域福祉や実践的な活動を支援し、地域福祉に貢献しうる有為な人材の育成につとめる。

経済学部「卒業論文発表会」開催

経済学部教務委員長

斉藤

悦子 教授

学生生活の最後を締めくくる卒業論文発表会が2月3日に開催された。経済学部では卒業論文提出と同時にその発表を行うことが卒業要件となっている。今年度は13会場で15ゼミナールが発表した。

発表会では、各ゼミナールの指導教員(主査)ともう1名の教員(副査)の前で、論文の内容を約10分間の制限時間の中で報告し、その後、審査員と聴講学生からの質問に答えなければならぬ。短時間の中で、研究の成果をいかにしたら十分に理解してもらえるか、各自がレジュメ準備に工夫を凝らし、学生としての最後のプレゼンテーションに挑んだ。論文のテーマはバラエティに富んでいたが、昨今の金融危機や社会情勢を反映し、経済不況脱却の方途を探る研究や非正規雇用者の問題を論じたもの、社会

保障制度の今後のあり方を検討したもの等が多く、経済学を学び、今を生きる若者にふさわしいテーマが扱われていた。質疑応答においても、発表者は自らの意見を堂々と語った。これは、各自が長い時間、苦勞と努力を重ねた末に卒業論文を完成させたことを裏付ける結果であろう。

学生たちにとって、卒業論文作成と発表は試験であつたかもしれない。しかし、一つのことには無我夢中で取り組んだこの経験は、必ず将来に生かせる。発表会に立ち会った教員は、一人ひとりの成長を目の当たりにし、強くそう実感した。



「課外体育サポーター」「体育授業サポーター」活動報告

今年度の課外体育サポーター(参加者12名)と体育授業サポーター(参加者13名)の活動が無事終了しました。前者は中学校の運動部活動の補助、後者は正課の体育授業の補助を行いました。



1月の報告会では、各学校での活動について現場の様子を共有し、今後「保健体育」の免許を目指す上で必要な技能や、教育現場の先生方が実践されている指導法を学び、理解を深めることができました。

また受け入れ校の先生方からは学生への感謝の言葉とともに、次年度もこの制度を利用したいとのお言葉をいただきました。学生と学校(担任)との打ち合わせの時間が十分に取れないなどの課題もありましたが、来年度にむけてさらに制度の充実を図っていきます。

「福祉実習報告会」開催

臨床福祉コミュニティ学科では、社会福祉士・精神保健福祉士を目指す学生が学んでおり、今年度は、16名の学生が18の福祉施設・機関で社会福祉援助技術現場実習、および精神保健福祉援助実習を行いました。夏から約1カ月間、福祉の現場に触れ、様々な体験をし、その全てが貴重な財産となりました。長期間の実習が初めてという学生が多く、戸惑うことも多々ありましたが、施設・機関の関係者の皆様に支えられ、福祉に関する専門的な知識・技術、そして専門職としての姿勢を学び、とても充実した実習となりました。

11月26日に開催された実習報告会には、実習先で指導いただいた4名のご来賓の方をはじめ70名ほどが参加しました。報告者たちは、現場の仕事を通して感じた福祉の問題や得たことを紹介すると、フロアからは鋭い質問が相次ぎ、意義ある報告会となりました。



「経済学科留学生プログラム」開設

経済学科では2009年度から留学生プログラム「日本経済とビジネスを学ぶコース」を設置します。本学には、2001年から留学生別科が既にあり、学部入学前の留学生教育においては、優れたノウハウを持っています。この度、新たに作られた留学生プログラムは、これまで培われてきた留学生対応の教育方法と経済学科ならではの専門科目を組み合わせたことによって、本学科に入学した留学生が、日本で経済学とビジネスを学ぶことのメリットを最大限に生かせるようになっていきます。

具体的には、1年生の必修科目である「基礎演習」について、留学生用の「基礎演習」クラスを設けて

います。留学直後で慣れない学生生活の不安が軽減され、円滑に日本での学生生活がスタートできるように。このコースのねらいは、日本語の強化と日本経済とビジネス知識の獲得です。そのため、留学生専用の「文章表現法」の講義や、日本経済とビジネスを理解するための専門科目が数多く準備されています。これらの学習に真剣に取り組むことは、日本企業が留学生に求める能力を身に付けることに直結しています。従って、卒業時には、日本での就職も可能となります。経済学の知識を持ち、国際的に活躍する留学生の育成が、コースの最終的な目標です。



岐経祭'08“新生～ココロアラタニ～”

今年の岐経祭は、11月22日、23日に開催されました。大学創立40周年という節目を終え、再スタートという意味で、今年のテーマを「新生」にしました。このテーマのもと実行委員、学生会、そして大学全体が一丸となって前年を超える盛り上がりを見せました。

前庭では、模擬店・フリーマーケットやテント村がオープンし、参加団体は年々増えています。企画では、今年初めての試みである恋愛企画を始め、各企画でも豪華賞品を用意し、参加者に満足していただきました。

毎年好評の無料野外「コンサート」では、フューチャリングで有名な「童子-T (BOYNYNYNY)」により、岐経祭の初日を飾ることができました。2日目には、名古屋で有名なエロエロアーツテイスト「AK-69」を迎え、参加者と一体となったライブが展開されました。その他、根強い人気のある「メロリンQ」、「レーザショー」が行われ、最後には岐経祭の締めであるGBBSという会場全体で踊るダンスにより、絆を深めることができました。

実行委員スタッフ、在学生、地域住民の皆さま、そして協賛してくださった企業の皆さまに支えられ無事成功させることができました。ご協力ありがとうございました。

実行委員長
経営情報学科3年 山田 一哉



ユニーク・プラン報告

西美濃地域における淡水魚保全活動

—ふるさとの自然復元に向けて—

「ユニークプラン」とは、独創的な研究・調査・その他の活動を企画する学生を支援するため、助成金を給付する制度です。個人企画は10万円、団体企画には25万円を限度に助成されます。



私たちは今年度、西美濃地域の身近な自然を復元する実践的な活動を目指し、①基礎的な魚類相調査（西美濃周辺）や、②海津市南濃町にて水田魚道実験、③地域の自然観察会への参加や、ピオターの観察といった活動を行ってきました。ここでは、これらの調査・活動の一部を紹介したいと思います。

①については、淡水魚の活動が活発になる時期（春～夏）に行ったので、川で汗だくになりながら魚とりをしました。調査中には近年濃尾平野で減少しているモロコ仲間を採集でき、希少淡水魚の現状を把握することができました。

②については、水田を繁殖に利用する魚類のために作られた魚道の改良および観察をしました。調査期間中、主にメダカなどの魚類の遡上が確認されましたが、4つある魚道の遡上数がまちまちだったため、魚道の改良や、魚類の遡上の動機（産卵）などをより詳しく調べることが今後の課題となりそうです。

③については、夏休みに地域の自然観察団体や研究者の方々と共に魚の観察会を行いました。参加してくれた子どもたちはメダカやミスカマキリなどに大興奮でした。

こうしたかたちで学生が環境保全あるいはふるさと活動に関われたことはとてもいい経験になりました。感謝！

ヨーロッパの サッカー文化に触れて

スポーツ経営学科3年 柴田 和也

◆恐怖の体験

12月20日から25日までゼミ旅行としてイタリアのミラノへ行った。この旅行の目的は、ミラノでセリエAの強豪クラブの状況を知ることから、試合を観戦した。しかし、その前に今旅行最大のアクシデントが待ち構えていた。2日目にドゥオーモに向かっている途中でそれは起きた。ホテルを出て地下鉄に乗り、駅から出た私たちを待ち構えていたのは、笑顔で強引にミサンガを腕につけてくる黒人だった。私はなんていい人なのだろうと思ったが、やはり外国だった。後から2人に囲まれ、ミサンガ代として現金を巻き上げられてしまった。日本がどれだけ平和かよくわかった。人生でワースト5に入るくらいに恐ろしい体験だった。ドゥオーモの中を見学するつもりだったが、みんな興奮していたのでその日はやめ、試合観戦の翌日にドゥオーモの中を見学した。ドゥオーモ内部はとても広く、薄暗く、静かだった。十字架だけの天使の像、窓に描かれた鮮やかな絵などがあり、今までに見たことのない不思議な空間だった。



●ACミランの試合観戦

目的のACミランの試合は、とても興奮した。観客を含め、Jリーグの試合とは雰囲気まったく違うものであり、ヨーロッパのサッカー文化の凄さを感じられた。チケットの購入にはパスポートが必要で、チケットにはそれぞれ名前がフルネームで印字され、入場の際に、もう一度、チケットの名前とパスポート確認を求められるなど、警備が強化されていた。試合については、イタリアはもっと守備的サッカーをすると思っていたが、ACミランがFWにロナウジーニョ、カカ、パトという世界的なブラジル選手を揃えていたことで5点も取る試合になり、さらに楽しませてくれた。試合後には、サンシロスタジアムの内部も見学した。内部にはこのスタジアムをホームとして使う二つのクラブ、ACミランとインテルに、それぞれチーム専用のミーティングルームがあり、それとアウェイチーム用の部屋と3つの部屋があるのには驚いた。ACミランの部屋には革張りの豪華な椅子が並んでいて、ACミランの選手としてベンチ入りする選手のステイタスを感じられた。今回の旅行は、恐怖の体験もあったが、これも含めて充実した旅行だったと考えている。これからは、甘い話に乗らないように気をつけ、機会があればまた是非行きたいと思う。

本学では、学外で調査・研究を行う場合や親睦を図るための旅行に対して、ゼミ運営費から補助金を支給しています。

実施する旅行	補助対象となる項目
ゼミ旅行	宿泊費 1人1泊 6,000円まで バックツアー利用時 実費の60%を補助
現地調査旅行	宿泊費 1人1泊 6,000円まで バックツアー利用時 実費の80%を補助 交通費 ●大垣駅起算、往復普通運賃、特定・特急料金(片道100km以上)の50%を補助 ●本学のマイクロバス使用の場合は、ガソリン代、運転委託費、有料道路料、駐車料等の50%を補助 ●航空運賃・船賃は実費の50%を補助

学びのフィールドを 広げて

ゼミ旅行・現地調査旅行レポート

戦跡から学んだ 沖縄の歴史

経済学科4年 青木 智史

今回のゼミ旅行で沖縄に行きました。班ごとに課題が出されて私たちは沖縄戦線について調べることになりました。

沖縄戦線について調べるために、まずは平和祈念公園に行きました。平和の礎や資料館などがあります。資料館では沖縄戦線で日米両軍が総力を挙げて死闘をくり広げたことや、米軍の物量作戦によって空襲や艦砲射撃が無差別に加えられおびただしい数の砲弾を撃ち込まれたことを、スクリーンを使って上映したりしていました。一番戦争の惨さを感じたのが当時の写真が載っているパネルでした。上半身と下半身が分かれて死んでいる死体が写っていたり、子供がおびえた顔をしている写真がいくつもあり、戦争の恐ろしさを肌で感じることができました。

次に行ったのが旧海軍司令部壕です。旧海軍司令部壕は、司令官であった大田実氏ほか多数の海軍兵士が戦死した場所です。司令官室には今でも壁に塗られた漆喰や自決のために使用された手榴弾の破片によって傷つけられた壁が多数残っていました。壕の中にいるだけで当時の雰囲気を感ぜられますが、残っている跡を見ていると一層、戦争の惨さを感じました。

このゼミ旅行を通して、沖縄の過去には今では想像もつかない悲しい惨劇が起こっていたことを深く知ることができました。ゼミ旅行は普通の旅行とは違い、「旅行を楽しむ+歴史・文化を知る」というゼミ旅行だからこそできることがあります。また、ゼミ仲間の絆が深まることもゼミ旅行の楽しみの一つだと思いました。



交流の輪を広げよう!!



現地の文化に触れ、実践的な会話力を身に付けることを目的に、夏季・春季休暇中の1ヶ月間、アメリカ、ドイツ、中国、フランスでの語学研修に参加することができます。

2月には、スポーツ経営学科3年の3名の学生が海外語学研修に旅立ちます。ハワイ大学マノア校へ出発するのは大川一貴さんと渡邊真央さん。二人は共に野松教授のゼミ生でもあり、刺激合いながら生の英語を学ぶことを楽しみにしています。ドイツへ出発するのは岩堀大気くん。現地ではホームステイを予定しており、同室になる他国の学生とのコミュニケーションも楽しみの一つです。期間は共に2月7日から3月1日までの約3週間です。

海外語学研修レポート

フランスで出逢った仲間たちの笑顔を、私は一生忘れない

経営情報学科2年 松原 千里

私のフランス語学習法

昨年の夏、8月4日～8月22日の期間に海外語学研修に参加し、フランスのブルゴーニュ大学へ短期留学をしてきました。今回の短期留学を決めたきっかけは、フランス語が好きだということ、そして、思いきって海外に出て学んでみたかったという理由からです。本当は一人でフランスへ行くことはとても不安でした。ですが、その心配を上回るほど素敵な体験ができるという期待に興奮していました。

短期留学が決定した時点で私のフランス語のレベルはとても低く、自己紹介と簡単な挨拶しかできませんでしたので、ある程度まで自分で学ばなければなりません。自分で選んだテキストを少しずつ進め、疑問点をまとめ、定期的に先生のもとへ学びに行きました。また、図書館で文法書やシャンソンのCDを借りたり、フランス映画のDVDを見たり、フランス語で日記を書いたり、「毎日フランス語に楽しく触れること」を目標に学習しました。ただ家に引きこもり、文法の勉強をするのではなく、自分の興味のある勉強法で楽しく学習を進めることができました。

世界の仲間たちとの交流

現地に到着して、心配がすぐに吹き飛んでしまうほど、フランスは素晴らしい街で、ブルゴーニュ大学は素晴らしい大学でした。大学のクラスの国籍は本当に様々で、アイルランド、トルコ、インド、ドイツ、中国、韓国など様々な国から幅広い年代の人がフランス語を学びにきていました。クラス

では緊張でうまく話せなくてもすぐに友達がたくさんできました。クラスの友達とフランス語で会話するのは本当に楽しかったです。うまく伝わらなくてもお互いに辞書を引きながら話したり、ポディーランゲージで伝えたり、お互いの国の言葉を教えあったりと、分かり合い、笑いあうことができました。文化が違い、言葉が違い、宗教が違います。それでも「フランス語を学ぶこと」を通して一緒に笑い、一緒に学ぶことができます。これは私にとって本当に衝撃的で、素晴らしい体験になりました。

積極的に行動することが大切

街に出て買い物するだけでも勉強になります。ディジョンは本当に過ごしやすく温かい街でした。街の中心は栄えており、交通の便もよく、街の人たちも大変親切でした。夜暗くなるのも9時頃でしたので、授業が終わったあとは積極的に街に出ました。また、授業が休みの日には自分自身で計画して旅行へ行きました。ルーブル美術館、エッフェル塔、凱旋門、オペラ座など代表的な名所へ自分の足で訪れ、実際に目で見て本当に感動しました。

様々な場所を訪れ、多くの人と関わる時に「他の国の友達ともっとたくさん話したい、お店の人たちともっと会話できるようにになりたい」と心から思いました。だからこそ、もっともっと様々な表現を学びたいと思えました。そして、その根底には文法の勉強が大切であることも学びました。とにかく単語を並べるだけでも積極的に会話する。わからなかった単語や文法をあと

から学びなおす。これが私のフランスでの勉強スタイルでした。とにかく積極的に行動することが学習を深めていききっかけになりました。

目標の仏語検定3級も取得

この短期留学を通して、語学のレベルは格段にアップしました。そして今までよりフランス語が大好きになりました。目標としていたフランス語検定の3級も取得することができ、現在は2級を目指しさらに学習中です。

そして、今回の留学は語学の学習だけでなく、自分の人生において大きな収穫となりました。こうして、言葉にして書くだけではみなさんに伝えきれないほどの感動がありました。私は、フランスで見た一面に広がるぶどう畑や澄んだ青空、そしてフランスで出逢ったたくさんの仲間たちの笑顔を一生忘れないでしょう。

海外に3週間住み、学校へ通うということは今やらなければ一生できない体験だと思います。ですから少しでも興味のある方はぜひ語学研修に参加されることをお勧めします。

最後に、この留学は大学の皆様の援助、友人、家族の支えや助けがあったからこそ無事に終えることができ、こんなに素晴らしいものとなりました。皆様に心から感謝したいです。

Merci beaucoup.

異文化体験事業レポート

ドイツで地域スポーツ振興を学ぶ

スポーツ経営学科3年 戸倉 克也



私はこれまでサッカーを小学生のころからやってきて、日本のスポーツレベルが上がってきたことを感じていました。しかし、それでも日本とヨーロッパの国際試合を見ていると、スピード感や技術などに明らかな違いがあることを認めずにはいられませんでした。その理由を少しでも知ることができればとドイツ旅行への参加申し込みをしました。

ドイツに行って最も日本との差を痛感したのが、国におけるスポーツ価値の高さや環境です。ハイデルベルグ大学を訪問した際、バルシューレという低学年の子どもたちが球技の基礎技能を修得できる遊び感覚で行うボールゲームの見学をしました。学生が子どもたちや地域スポーツクラブの指導者に指導をしたことが、学校で学んだことへの学

習理解や指導方法の促進、地域の指導力にもつながっていることを知りました。そして、バルシューレの講義が終わるとき子どもたちには修了書が渡され、子どもがどんな球技に向いているのかが記載されており、それを元にスポーツクラブでの競技選びをし、効率よく指導者や選手を育て上げるシステムがありました。

そういう過程を経て、子どもたちはスポーツクラブのチームに入ろうです。見学に訪れたスポーツクラブはきれいに整備されたコートが3面あり、その他レストランなどの建物があり、小さいクラブと聞かされていたのでとても驚きました。そしてその施設を建てるのに、市が約半分近く負担し、ほぼ非営利で運営しているということを知りました。

私はフィットネスクラブでアルバイトをしていた経験がありますが、ドイツの非営利クラブは目的がはっきりとスポーツに向けられているという点で営利クラブと比べ、大きな差があるのではないかと思います。それから、地域の人が自分の地域のチームを応援している姿勢が多く目に付きました。ドイツ国民にとってスポーツをすること、応援することは生活の一部であり、なくてはならないものなのだと思えました。

他にもスポーツマンシップ精神など意識の高さや、柔軟な考え方など学ぶことが多くありました。この経験を生かし、これからの人生において少しでも日本のスポーツ文化の向上に貢献できる活動をしていけるように励みたいと強く感じた体験になりました。

「簿記2級」合格体験記

経営情報学科3年
シヨン リイイ



4年前、中国で英語の教師として働いていましたが、日本にずっと興味を持っていましたので日本に留学しました。金沢市の日本語学校で1年半日本語を勉強して、岐阜経済大学に入学しました。今、経営情報学科の3年生として学んでいます。まもなく4年生にな

りますので、就職のためにいろいろな資格を目指そうと、昨年11月に簿記2級を受け合格しました。

日商簿記2級は商業簿記と工業簿記の2つの部分から構成されます。簿記試験の5つの問題の中は、前の3つは商業、後の2つは工業です。例えば、商業簿記の「委託販売」「受託販売」「割賦販売」「予約販売」「試用販売」や「社債」「売買目的有価証券」「保有目的有価証券」など、また工業簿記も「直接材料

費」「経費」「製造間接費」「一般管理費」と広範囲に亘って試されます。

私は、大学の3年間で、斉藤先生の簿記Ⅰ・簿記Ⅱ、角田先生の簿記Ⅲ、小倉先生の実務計算・企業会計など授業をしっかりと勉強した上で、簿記試験の過去問題集に取り組みました。試験の出題傾向をよく理解して勉強すれば、簿記2級に合格するのは、それほど難しくはないと思います。

上海财经大学 交換留学生レポート

コ キョウリン
顧 曉琳 さん

去年の4月から始まった1年の交換留学生活もそろそろ終わりに近くなってきました。この1年間で、語学だけではなく、それ以外にもたくさんのごことを学び、また感じることができました。

中川小学校での児童との交流会や、大学サークル「HIGE☆BU」でのボランティア活動、岐阜県の留学生弁論大会など、いろいろな活動に参加しました。そのうち、嬉しいことに、指導の先生のもとで頑張って、留学生の弁論大会で2位に入賞、去年の11月には、日商簿記資格の2級に受かって、充実した生活を送ることができました。

そのほかに、日本のいろいろなところへ旅行に行きました。東京



タワー、大阪のたこ焼き、京都のもみじ、奈良の鹿、福井の日本海などを見て、深い思い出が残りました。

これまでの短い人生のなかでも、日本での1年間の留学生活はいい経験となりました。このことで日本という国を深く知ることができました。機会があれば、またここに来たいと思います。最後に、教えてくださった先生方、親切にしてくれた学生たち、みんなに出会えてよかったと思っています。本当にありがとうございました。

上海财经大学との学术交流協定に基づき、昨年4月からの1年間、本学で学んだコさんとチンさんのお二人に、日本や本学での思い出を綴っていただきました。

チン キョウイ
陳 姜偉 さん

時間がたつのは本当に早いもので、まもなく帰国のときがやってきます。日本に着いたばかりのときの感動と不安は、今でもはっきり覚えています。この一年間のことを顧みると、忘れられないこと、忘れたくないことが、たくさんあります。

そんな中で、最も印象深いのは中川小学校の国際交流活動です。小学校の子どもたちと遊んだり歌ったりしたことは初めてで、私も最初のうち胸がどきどきしました。私の不安そうな顔を見た一人の先生は「みんな、かわいい子だし、そんなに怖がらなくてもいいよ」と励ましてくれました。遊び時間に入ると、一人の女の子は「ね～お兄さん、いっしょに遊ば



う」と誘ってくれました。彼女の澄んだ声も、無邪気な笑顔も忘れられません。この一言の励ましも、一言の誘いも、緊張を取り除く力になって、愉快的国際交流体験を与えてくれ、貴重な思い出になりました。

人生というものは、一人ひとりとの出会いからなっているものではないでしょうか。先生方、学生たち、岐阜経済大学の人々との出会いがあればこそ、この1年間の旅はこれほど充実したものになりました。岐阜経済大学の今後の発展を心より祈っています。

学校の運動部活動を通して
スポーツ文化を振興してきた日本。
だからこそ、今、運動部活動で
「何」をするのかが問われているのです。



経営学部専任講師 **神谷 拓** 先生

**運動部活動の
「教育的意義」は何か？**

誰もが知っている運動部活動。甘い思い出、苦い思い出、色々な経験をした運動部活動。しかし、意外かも知れませんが、学校教育で行わなければならない「教育的意義」は、今のところ不明です。単に人間関係を深めるのであればホームルーム・学級活動でもできます。先輩と後輩の人間関係を築くのも「学校行事」や「生徒会」の活動で可能です。体力を高めるのであれば、地域のスポーツクラブでもできます。優れた選手を養成するのが目的だという人がいるかもしれませんが、学校の教員は「教科」を教える専門家であって、コーチングを任務としていません。不思議なことに一つずつ理話めで考えていくと、運動部活動の「教育的意義」は無くなってしまいます。このように運動部活動の教育論を分析し、特徴と限界を指摘することが、これまでの私の研究テーマでした。

**「スポーツ文化の振興、継承、発展」
に向けた運動部活動の役割**

最近では、新たな段階に進み、運動部活動の実践研究に取り組んでいます。今、岐阜経済大学で行っている「課外体育サポーター」制度もその一つです。そもそも日本においてスポーツが受容された場合は「大学」でした。そして、大学生アスリートによる技術指導、各種目の解説書の執筆、さらには大会の開催などを通して、中学校や地域へとスポーツが振興されたのです。今日、私たちがスポーツを楽しんでいるのも、100年前の運動部員による地道な活動があったからです。今のところ私は、このような「学校や地域のスポーツ振興」の取り組みに、運動部活動の「教育的意義」を見出しています。このような活動を期待できる領域は、学校の中で運動部活動以外に見あたりません。新しい「教育的意義」というよりも、運動部活動の原点に立ち返り、今日に何を継承すべきかを考えた「スポーツ文化の振興、継承、発展」に行き着いたとも言えます。これからは、この問題意識に基づいて研究を進めていきたいと思っています。



PROFILE

1975年3月に埼玉県浦和市(現さいたま市)に生まれ、その後、父の実家である茨城県に引っ越し、18歳まで過ごす。高校時代に空手部に所属していたこともあり、卒業してから半年間、プロのキックボクサーをめざして練習に励むが、タイで本場のムエタイ(タイ式キックボクシング)に接して挫折。帰国後の9月から浪人をはじめ、中京大学体育学部武道学科に入学。その後、和歌山大学大学院修士課程、筑波大学大学院博士課程を経て、2007年より岐阜経済大学経営学部専任講師。専門は体育科教育学、特別活動論、スポーツ文化論。昨年、筑波大学より博士(教育学)の学位を授与された。

趣味拝見

私はもともと「無趣味」でした。趣味を持つ余裕が無かったとも言えます。岐阜に来てから、それではいけないと思い、バイクに乗り始めました。大型免許をもっていますが、今は250CCのドラッグスターというアメリカンタイプのバイクに乗っています。昨年の夏は、岐阜から鹿児島まで行って来ました。向かう途中で2泊しましたが、ひたすら「走る」ことだけ考えて、久しぶりに「無心」になれました。次は、もっと大きいバイクで行きたいですね。





社会人として大学院で学ぶ喜び

大学院経営学研究科修士課程1年 山田政司さん(70歳)に聴く

—山田さんは、家業の酒類量販店を営みながら61歳で定時制高校に入学、65歳で本学の経営学部ビジネス戦略学科に入学され、大学を1日も休むことなく4年間で卒業後、昨春4月、本学大学院に入学されました。仕事をしながら学ぶことの喜びやご苦労をお聞かせください。

中学を卒業した時、家庭の事情で就職しました。17年間修行を積み、33歳の時、酒屋を立ち上げました。同級生で高校に進学した人がうらやましくて、いつか勉強したいと思っていました。61歳まで45年間その気持ちを温めてきたので、思いつきで大学に入ったわけではないのです。学ぶことに定年はなく、知識不足を埋めたくて入学したのです。

—今、大学院で学ばれて、その希望はかなえられていますか。

研究者としてトップレベルの教授の方々との出会いがあり、この大学に通わせてもらえることがとても有難い。70歳になると居場所がないけれど、私には行く場所があり楽しみでもあります。知識の集積ができることが、私の喜びです。

—仕事をされながら学業を続けることは、ご苦労も多いと思いますが。

挑戦することは楽しいといえば嘘になる。学ぶことはむしろ苦しい。一番難しかったのは外国語。社会人だからといって手加減なしです。家で8時から仕事を始め、3時くらいから大学へ通学。予習は毎日2・3時間。単位を取らなければという気持ちもあり、毎日予習しました。でも、4年間続けられ卒業できたことは私の誇りです。

—大学院での抱負は。

中小企業、地場産業の勉強をしたい。学ぶと生活が変わります。苦勞して学べば知識を得られ生活も充実します。まだまだ学ぶことは尽きません。

大学を卒業してから、また社会に出ても学び続けたいという人が増えています。本学大学院経営学研究科では、そういった声に応えられるよう、原則的に夜間開講、そして学費は低額に抑えて学ぶ環境を整えています。現在、大学院修士課程では29名が在籍、そのうち12名が社会人です。今回は、そうした社会人院生の方に登場していただきました。

社会に出ても 学び続けて

本学大学院経営学研究科での 学びのススメ

酪農学園大学キャンパス



大学院調査旅行レポート

酪農学園大学と江別市、 夕張市への視察・交流

大学院経営学研究科 渡邊 優 (60歳)

昨年8月8日から3日間、北海道へ調査旅行を実施。ゼミ指導教授の鈴木先生はじめ院生等、8名が参加しました。

酪農学園大学 酪農学部農業経済学科にて本学院生の修士論文テーマと概要を報告、研究へのご助言、提言等をいただき意見交換を行いました。大学中央棟(10階)屋上からは、牧草地、畜舎や家畜病院、農産加工施設が散在する広大なキャンパス全域と札幌市街、支笏洞爺国立公園の山容を眺めることができます。大学オリジナルタオルやクリアファイルには、特産のジャガイモ、タマネギ、トウモロコシのキャラクターが描かれ学内外に好評とのこと、本学でも参考にしたいキャンパスグッズです。

江別市 大学に近い都市近郊農業地帯、案内された新進気鋭の有機栽培農家の圃場沿いの小川は、水際まで散策できるよう酪農学園大学クライスタークラブの学生が草刈り。農業、収穫体験と川遊び等組み入れた、地域ならではのグリーンツーリズムの企画を産官学連携で進めています。

夕張市 2007年3月に財政再建団体となった名張市議会副議長と懇談しました。財政再建3年目、行政依存から市民協働、自主・自覚的な動き「市民力が活発化してきています。」「石炭の歴史村」などの産業遺産、映画「幸福の黄色いハンカチ」ロケ地跡、スキー場、夕張メロンなど地域資源を活かして再建に取り組んでいます。当日夜はゆづり祭り、夕張市民とともに再生を願って私たちも踊りの輪に入りました。江別市と夕張市、対照的ながらも、地域振興の課題、展望は地域力、地域資源と人と、自主・協働を両地域から強く学ぶことができました。

近著紹介



郷土力を活かす 市街地再生のまちづくり

—地域内再投資による「芭蕉元祿ミュージアム回廊構想」—

文理閣
2008年8月
学校法人岐阜経済大学
堀富士夫 副理事長

堀氏は、2004年4月本学大学院修士課程(現在の都市・地域政策コース)に社会人大学院生として入学し、鈴木誠教授の指導を受けて中心市街地の活性化方策に関する研究の成果を修士論文にまとめました。このたび出版された本書は、修士論文をもとにさらなる考察と大垣市の中心市街地での実践的活動を加えてまとめたものです。

なお、堀氏は、現在も京都大学大学院で研究生として研究を継続し、このたびの著書をもとに博士論文の発表を次なる目標におき努力しています。本学で社会人大学院生を目指す方にはお薦めの一冊です。

〈著書概要〉

本書では中心市街地衰退の経緯や要因を解明した上で、狭義の中心街再生(商店街振興)にとどまらず、「持続可能なまちづくり」による「協働型コミュニティ」を社会目標に置いた社会経済システムのあり方について考察を進め、「地方都市・中心街のにぎわい再構築」および「都市コミュニティ再生」の条件と可能性を展望している。

大学祭実行委員・クラブの部長・教職・ そしてアルバイトの日々 ——支えてくれた仲間へ感謝!!



二人が、大学祭実行委員会に参加するようになったきっかけは。

上田:入学後のパーティで先輩から勧誘され、女子6人で入りました。きっかけは、楽しい!アーティストに会える!と言われたからです。高校のときも実行委員をやっていた楽しかったから、自分たちで作り上げる学園祭に興味がありました。

蘭田:岐経大・岐阜女子大・東海学院・岐阜高専の4校で構成されている岐阜県学園祭連盟というのがあり、他大学と交流できるということで参加しました。

大学祭の準備は、どんなことを。

蘭田:最初の仕事は企業に広告をもらいに行くこと。広告取りは広報担当。私は、パンフレット担当なので、企業からいただいた広告の原稿作りが最初の仕事でした。

上田:私はケータリング担当。学園祭当日、アーティストの接待を主にしていました。その他にも、装飾・テント・フリーマーケットなどの担当がいます。1年生の時は学園祭の準備で深夜12時を超えることもありました。

蘭田:岐経祭には、毎年多くの他大学の方が手伝いに来てくださいます。今年の大学祭のステージ設営では、その人たちのために女子3人で「まかない」を100食くらいつくりました。

かなりハードな仕事ですが、やめようと思ったことは。

上田:毎年「今年でやめよう!」と思いつつ、今年まで頑張りました。やめようと思ったのは、夜遅い作業が大変で、肉体的にも精神的にも本当に辛かったからです。

蘭田:でも学園祭が終わった後のエンディングで先輩たちの話を聞くとやめられなかった。この達成感があったから続けられたと思います。



スポーツ
経営学科3年
上田 悠
(21)

スポーツ
経営学科3年
蘭田 実華
(21)



上田:女子がいないので、仕事が引き継げなかったため。誰にも仕事を引き継げずやめることはできなかった。最後まで残ったのは、責任感と達成感からですね。

実行委員をやっていて良かったと思うことは。

上田:全部良かった!いい思い出、それ以上のものがあった。言葉ではうまく言えないけど、2人が感じたものは、3年間続けることができたからこそ味わえたもの。得るものはスゴク多かった。

蘭田:一人ではやることが多すぎて、いろいろな手を借りることによって、周りの大事さを感じられた。実行委員の仲間は、最初は苦手だったけど、今では大好きです。みんな信頼し合っています。男子は女子の何十倍も頑張ってくれて、男子の努力は比じゃない。ほんと、男子には感謝しています。

ところでお二人は、大学祭実行委員の仕事をごなしながら、それぞれクラブでも活躍されていますね。

蘭田:女子バスケット部に所属し、キャプテンをしていました。中・高とバスケをしていましたが、本学に入学したら、女子バスケット部がなかった。それで、1年生の時は、社会人クラブと大垣女子短大の合同でバスケの練習をしていました。2年生になった時、後輩5人に声をかけられ、2年の4人と合わせてメンバーが揃ったので、同好会を結成しました。岐阜県や東海リーグの試合に出たりしています。岐阜県リーグでは1部で2位でした。

上田:バドミントン部で、1年生後半から部長を務めました。1学年上に先輩が一人もいなかったの、3年生がやめるときに指名されたためです。ク



蘭田 実華さん ▶

ラブで部長と実行委員の両立が大変でしたが、部長がカバーしてくれたおかげで、どちらも頑張ることができました。

お二人は、アルバイトもやっているそうですね。よくそんな時間が取れますね。

蘭田:焼肉屋さんでアルバイトしています。生活費は、奨学金(日本学生支援機構)とアルバイトで賄っています。家からの仕送りは一切なし。授業料だけ親に負担してもらっています。

上田:スイミングスクールでインストラクターのアルバイトをしています。家賃は親に負担してもらっていますが、それ以外は家からの仕送りはないので、生活費はアルバイトで稼いでいます。

将来の希望を聞かせてください。

蘭田:大学に入る目的は「先生」になることだったけれど、勉強していくうちに、企業に勤めたいという思いが大きくなってきました。教職は入学の目的だったので受けていますが、将来は、スポーツ用品販売店で、バイヤーをやりたいというのが、目の下の第一希望です。

上田:高校の時からインストラクターを目指していました。今、スイミングスクールでアルバイトをはじめ子どもたちと触れ合うことによって、スポーツの楽しさを伝えられるインストラクターの道に進みたいという思いが強くなりました。でも、教職を勉強したことは、スポーツクラブで子どもたちに教えるのに役に立っています。フィードバックなど授業で教えてもらったことが、しっかり活かされていて、教職を勉強したことが役に立っています。



◀大学祭実行委員のメンバーと

聴講生
CHIAKI



異色の聴講生、学ぶ 「ミス・インターナショナル・ファイナリスト」



▲「岐阜地域研究」担当の森 誠一教授とCHIAKIさん

CHIAKIさんのプロフィールをお聞かせください。

2008年ミス・インターナショナル日本代表のファイナリストで、ファッションショーなどのモデルをしています。この地域では、大垣共立銀行のポスターにも起用されました。今、「神戸コレクション」を始めファッション雑誌にも出ています。将来の夢は、パリコレに出ることです。

本学で、昨年9月から聴講生として学ばれていますが、勉強しようと思った動機は。

私は大垣市の生まれで、地元の高校を卒業してから東京の短大で英米文学を学び、主に東京を拠点に仕事をしています。しかし、自分の原点である生まれ故郷で、岐阜の自然について学びたいという思いから、ハリヨ研究で有名な森誠一教授の「岐阜地域研究」の講義を聴講しました。初めて学ぶ自然環境についての授業は新鮮で、毎回受講が楽しみでした。

岐阜経済大学の印象は。

9月のオープンキャンパスではトークショーに出演したのですが、高校生の皆さんが真面目に私の話を聞いてくださって、その視線にかなり緊張しました。10月の十万石祭り、11月の大学祭にも



参加させていただき、学生さんたちが祭りを盛り上げようと一生懸命取り組む姿を見て感動しました。学生の皆さんと交流できて、とてもいい思い出ができました。

座右の銘、モットーをお聞かせください。

座右の銘は一期一会です。モデルの仕事で関わった人たちと再び会うことは少ない、だからこそ、お会いした人たちとのつながりを大切にしたい。またモットーは、その時々を全力投球で完全燃焼し、後悔しないように生きたい!

最後に、岐阜経済大学の学生たちへメッセージを。

学生の皆さん、岐阜経済大学で多くのことを学んで、一瞬一瞬楽しんでくださいね。

まだ見ぬ自分の才能を試したくて…
もっと遙かな高みに挑戦したくて…
今、熱い情熱に燃えている人の全力投球に注目!!

私たちの 全力投球 紹介します



▲教職課程支援室にて

北さんは教職課程支援室で熱心に指導を受けていると聞きましたが、本学への入学の動機は。

私は、この岐阜経済大学に救われました。思い起こせば、私は2年前に人生最大の挫折を味わいました。国立大学の推薦入試、第1、第2志望大学の一般入試での不合格、センター試験で思うような得点を取れなかったことです。しかし、保健体育科教員の夢をあきらめませんでした。最後の最後に岐阜経済大学に合格し、夢をつなげました。

スポーツ
経営学科2年
北 隼也
(20)



大学生生活の目標は。

私の残りの大学生生活の目標は、「岐阜経済大学の価値を上げる」ことです。勉強、部活、バイトの3つのことを軸に頑張りたいです。勉強面では、単位取得はもちろん、教員採用試験に向けての勉強に力を入れることです。教壇に立った時に、子どもたちから信頼、尊敬されるように一般、専門教養を身につけなければなりません。これからも教職支援室に通い、レベルアップしていきたいです。部活面では、何事にも挑戦していくことです。私は、サッカー部に所属しています。2009年度リーグから東海大学一部リーグで戦います。選手としては、レギュラーになれるように精神面、技術面、体力面を鍛えていきたいです。審判員としては、Jリーグ二部(J2)で第4番が可能な2級審判員を目指します。3年生としては、4年生と1、2年生とのパイプ役となり、チームをまとめられるようにリーダーシップをもちたいです。バイト面では、勉強と部活

夢は保健体育科教員

に支障がない程度に頑張りたいです。今まで支えてくれ、これからも世話になる家族の負担を少しでも軽くしたいです。

将来の夢は。

将来は、体育系または教育系の大学院に進学した後に高校の保健体育科教員になりたいと考えています。大学院では、スポーツに影響を与える心理的部分について深く学びたいです。また、2012年のぎふ清流国体で何らかの形でサポートしたいです。教員では、サッカー部の顧問となり、自分が果たせなかった全国高校サッカー選手権大会出場を導けるようにになりたいです。勉強、部活、バイトなどを頑張ることが「岐阜経済大学の価値を上げる」ことにつながります。また、夢の実現に向けて一歩近づくとします。そして、就職の際にネームバリューのある全国の大学と対等に戦えるように日々努力していきたいです。



硬式野球部 BASE BALL

2008年 秋季リーグ戦を振り返って

春季リーグ戦の雪辱をと臨んだ今リーグ戦、成績は6勝7敗・勝点2の4位でBクラス。多くの課題も抱えましたが、それなりの手ごたえを感じたシーズンでもありました。上位チームから勝点も奪いすべて3回戦に持ち込み互角の戦いを挑んだものの勝ちきれない点、投・攻・守の総合力で今一步の現状を強く認識しました。

●第1週 VS 中部学院大学

一回戦7回まで両チーム無得点の接戦であったが敗戦。二回戦 亀田裕平(経営学部2年・甲西高)が王者を見事完封し三回戦に臨むも敗戦。

●第2週 VS 岐阜聖徳学園大学

一回戦を落とすも二回戦を住大五郎(経営学部1年・飛騨高山高)が完投で勝ち三回戦に持ち込み亀田が延長11回を完封し勝点を奪取。

●第3週 VS 朝日大学

一回戦敗戦。二回戦は終盤もつれたゲーム展開も最終回2アウト満塁から坂井大輝(経済学部1年・岐阜城北高)のサヨナラヒットで勝利。しかし三回戦は有利な展開からよもやの逆転負けを屈す。

●第4週 VS 中京学院大学

前週の敗戦が影響したかのような展開で連敗。

●第5週 VS 岐阜大学

一・二回戦とも投手が好投し連勝。
4. 秋季岐阜学生リーグ戦は優勝大学が勝点の力が拮抗してきており好試合が多く展開されました。岐阜学生リーグのレベルもアップして上・下位の実力が接近、来シーズンは一層の激戦が予想されます。

岐阜経済大学にもチャンスは充分あります。ナイター照明の完備等練習環境も整備されてきており、チーム一丸となって厳しい練習に耐え目標に向かって邁進してまいりますので、今後もご声援よろしくお願いたします。



ボート部 BOAT



念願の合宿所での始動、さらなる飛躍!



昨年11月海津市において、念願のボート部合宿所が完成しました。これも、ひとえに、創部以来、ボート部を温かく見守っていただいた多くの皆様のご理解ご支援の賜物と感謝申し上げます。同年12月6日、新合宿所を拠点に本格的な活動が始動し、いままでの環境との違いで、最初は戸惑いも感じられた部員たちも、1カ月を経過するころには、合宿所のすばらしさを痛感し、海津の地から、我がボート部のさらなる飛躍を誓い練習に励んでいます。

反面、2008年度のボート部戦績は、2004年度から続いた全日本の冠する大会でのメダル獲得が途絶えました。最高の戦績は、全日本大学選手権男子シングルスカルにおいての4位ということ、部員一同、非常に悔しい思いをしました。しかし、その悔しさを胸にし、シーズン終了後、部内での競争が激化し、U-23日本代表にトライする部員が4名となりました。2009年度に向けては、合宿所完成にご尽力いただいた多くの皆さまに「感謝」し、全日本大学選手権総合優勝を目標に飛躍します。

東海大学サッカー 1部リーグに昇格



サッカー部
SOCCER

本学サッカー部は「スポーツマンのこころ」を大切に、昨年の東海2部リーグを無敗で優勝することができました。2009シーズンは初めて東海大学サッカー1部リーグに挑戦します。また、大学体育会の強化指定クラブにも昇格し、二重の喜びを感じています。

昨年、東海2部リーグ優勝を果たしましたが、岐阜経済大学サッカー部の目標は、東海リーグ1部優勝。そして2年連続で準優勝と天皇杯岐阜県代表まであと一歩なので、今年こそは優勝して初めての全国大会へ出場することが最大の目標です。目標を達成するため部員一丸となって練習に励んでいきたいと思えます。

人工芝の最高のグラウンドで練習をしているので、ぜひ一度グラウンドまで見に来てください。今年度も良い成績が出せるように声援をお願いします。

日本学生陸上競技個人選手権大会

ハンマー投

豊田 彩那 14位 (39m15)
阿知和 圭那 17位 (38m73)

平塚陸上競技場(神奈川県) 2008.6/6-8

全日本学生陸上競技対校選手権大会

阿知和 圭那 22位 (40m04)

国立競技場、代々木公園陸上競技場(東京都)

2008.9/12-14



陸上競技部
TRACK AND FIELD



陸上競技部の大半が男子部員で占める中、数少ない女子部員も活躍しています。ハンマー投の阿知和圭那さん(スポーツ経営学科3年)と豊田彩那さん(スポーツ経営学科2年)が全国大会出場を果たしました。6月に行われた日本学生個人選手権大会では、豊田さんが14位(39m15)、阿知和さんが17位(38m73)。9月に行われた日本学生対校選手権大会では2人も標準記録を突破したものの、大学で1名しか出場できないという規定より、今年度記録が良い阿知和さんが出場し、22位(40m04)という結果となりました。全国での力の違いを感じた大会ですが、大きな刺激となりました。現在、女子部員が一人でも多く全国の舞台で活躍できるように意識を高めています。今後も女子部員の活躍にご注目ください。

800m

久我アレキサンデル

日本学生個人陸上競技選手権大会

平塚陸上競技場(神奈川県)

5位 (1分54秒50) 2008.6/6-8



日本ジュニア陸上競技選手権大会

コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場(鳥取県)

4位 (1分53秒77) 2008.10/18-19

1年生ながら全国大会2試合において受賞したのが、久我アレキサンデル君(スポーツ経営学科1年)です。日本学生個人選手権800m予選1分54秒02の4着で通過、同日の準決勝に進出し、組で2着あるいは3着以降で上位記録2番目の記録に入らなければ決勝進出できないという厳しい状況の中、自己記録を更新し3着に入り見事決勝進出。翌日の決勝では、久我君以外は全て関東の選手というハイレベルのレースでの5位入賞。大学初戦での全国大会入賞は、本学にとって快挙となります。続いて10月に行われた高校3年生と大学1年生のナンパードンを決める日本ジュニア選手権大会では、予選自己2番目の記録で難なく通過、決勝では4位入賞。あと一歩で表彰台には届きませんでした。全国制覇が現実的になりそうな結果になりました。今年度は、東海・西日本・全国大会全て決勝進出という偉業を達成しました。今後は、東海・西日本チャンピオンを狙い、全国や世界で活躍できる中距離の星です。



男子バレーボール部
MEN'S VOLLEY BALL

目指せ1部リーグ昇格!

スポーツ経営学科3年 深石 佳佑



女子バレーボール部
WOMEN'S VOLLEY BALL

念願の東海リーグ 3部へ昇格

スポーツ経営学科3年 鈴木 麻美

今年も、また部員を増やし、女子バレー部を盛り上げていきたいです。これからも日々たくさんの人に感謝し、チーム一丸となって笑顔で元気よくバレーをしていきたいと思えます。ご声援をお願いいたします。

私たち女子バレーボール部は創部4年目。部員は、1年から4年まで合わせて11人。昨年春からは、新しく中村博巳監督(岐阜県バレーボール協会副会長)を迎えることができました。昨年は、今までで一番多い人数で大会に出場することができ、秋季東海リーグでは4部優勝3部昇格、県リーグでは、2部優勝を取ることができました。大学生活にバイト、部活との両立の中、部員が力を合わせて頑張ってきた結果が出てよかったです。

我々、男子バレーボール部は2007年度東海大学バレーボールリーグ戦(以下、東海リーグ)秋季大会において、念願の1部リーグ昇格を果たし、2008年度の春季大会で東海リーグの最高峰である1部リーグに初参戦。しかし1部リーグの壁は厚く、そして高く、秋季リーグからは2部リーグに降格という苦汁を味わいました。

秋季大会では、チームとしての結果は残せなかったものの、個人賞を3部門(サーブ賞、サーブレシーブ賞、セッター賞)において受賞し、個々の能力の高さを示すことが出来ました。

これらのことを糧として、杉本監督や、元Vリーグの平田コーチの指導を受けながら、また1部リーグの舞台に戻れるように、目標を高く掲げ、日々の練習に励んでいます。

2008年度課外活動実績(後期)

●ボート部

全日本大学選手権大会

男子シングルスカル(今井裕樹) 4位
男子ダブルスカル(嶋田盛一・東野英貴) 5位
男子舵手付きペア(仲矢俊之・久司和矢・冨田龍平) 6位

●陸上競技部

第35回東海学生秋季選手権

男子400m(大川光) 準優勝
男子400mH(大川光) 準優勝
男子4×100mR 3位

(西森基文・城戸一正・鈴木翔太・吉村純平)

男子4×400mR 準優勝

(小山真輝・塩満純一郎・吉村純平・大川光)

男子4×400mR 3位

(小幡亮・小熊翔一・中田大介・久我アレキサンデル)

男子走幅跳(櫻井佳廣) 3位

男子三段跳(櫻井佳廣) 準優勝

第24回日本ジュニア選手権

男子800m(久我アレキサンデル) 4位

第27回浜松中日リレーカーニバル

男子4×400mR (宮下竜二・塩満純一郎・小熊翔一・大川光) 準優勝

全国レディース陸上

女子ハンマー投(豊田彩那) 8位

●硬式野球部

秋季東海地区大学野球連盟岐阜県リーグ戦 4位

●サッカー部

東海大学サッカーリーグ 2部リーグ優勝 1部に昇格

●男子バレーボール部

東海大学バレーボールリーグ戦秋季大会 2部4位

岐阜県大学バレーボールリーグ戦秋季大会 1部2位

第61回秩父宮杯全日本バレーボール大学男子選手権大会

グループ戦敗退

●準硬式野球部

東海大学準硬式野球秋季リーグ戦

2部リーグ1位(同率 2部残留)

●女子バレーボール部

東海大学バレーボールリーグ戦秋季大会

4部優勝 3部昇格

岐阜県大学バレーボールリーグ戦秋季大会 2部優勝

●ソフトテニス部

秋季東海学生ソフトテニス対抗リーグ戦 5部4位

岐阜県学生ソフト選手権大会

ダブルス(中山裕之・成相拓斗) 3位

〃(小梶佳樹・工藤拓郎) ベスト8

岐阜県大学対抗ソフトテニス大会 男子Aチーム優勝

●バドミントン部

岐阜県学生新人バドミントン大会

(男子)シングルス(島尻昌也) 4位

〃(北村拓) ベスト8

(男子)ダブルス(北村・島尻) 4位

(女子)シングルス(網谷裕美子) 3位

〃(内生蔵祥那) ベスト8

〃(梅村舞) ベスト8

ダブルス(網谷・内生蔵) 優勝

●卓球部

東海学生卓球秋季リーグ戦 3部6位

入替戦 4部に降格

●女子バスケットボール同好会

岐阜県学生バスケットボール秋季リーグ戦 1部2位

●男子バスケットボール部

東海学生バスケットボールリーグ戦 3部3位

岐阜県学生バスケットボール秋季リーグ戦 1部2位

●少林寺拳法部

第42回 少林寺拳法全日本学生大会に出場

●スキー部

第82回全日本学生スキー選手権大会

男子4部アルペン競技 回転競技(中田優一郎) 2位

大回転競技(中田優一郎) 2位

男子4部総合 9位

第54回中部日本学生スキー選手権大会

男子アルペン競技 大回転(中田優一郎) 2位

回転(中田優一郎) 2位

スーパー大回転(中田優一郎) 12位

●空手道同好会

第46回スーパーファイティング全日本空手道選手権大会

成人男子の部(平野泰斗) 準優勝

決勝戦で延長戦の末、前年度優勝者に敗れた。



マイスター倶楽部

MEISTER CLUB

〒503-0903 岐阜県大垣市東外側町2-6

広瀬第一ビル1F

TEL&FAX: 0584-81-3816

E-mail: meisterclub@rapid.ocn.ne.jp



「終の住まい研究会プラチナブラザー」が、とん汁や甘酒の販売をしてくださり、寒さを和らげる賑わいの創出に一役買っていただきました。また、岐阜国体キャラクターのミナモちゃんも応援にかけつけ、多くの市民にお楽しみいただけるイベントとなりました。

1月24日、マイスター倶楽部と大垣駅前商店街振興組合が主催の「雁のり橋もちつきフェスティバル」が開催されました。毎年開催している餅つきイベントは今回で10回目。当日は雪模様で大変な寒さになりましたが、商店街や市民の方に「よいしょ」と掛け声をいただきながら、学生たちが力強くお餅をつきました。3回のお餅つきを通じ200名あまりの市民の方に、あずき・黄な粉・大根おろしの三種のお餅を無料でお楽しみいただきました。特に大根おろしは、学生自身が揖斐川町で農家の指導を受けながら、減農薬で栽培から収穫までしたもので「大根、あまい」とご好評いただきました。

もちつきフェスティバルを開催しました。

移転しました。

活動を始めてから11年目に突入した昨秋、マイスター倶楽部は活動拠点を新たな場所に移しました。これまでと同様に大垣駅前商店街の中にあるビルの一角ですが、広さも間口も、以前の二倍あまりとなり、学生の活動の幅や今後の可能性が、大きく広がりました。これからは、広いスペースを生かしたイベントの開催や、商店街や市民の方に親しみをもち立ち寄り寄っていただける場所づくりをすすめていきます。



◀ 社会人基礎力
グランプリに出場

今、2006年度入学生だけでやっていますが、来年からは先輩が後輩を指導したり、1年・2年生が早くから参加するなどの体制をつくっていく予定です。



就職活動サークル

JOB HUNTING

スポーツ経営学科3年 倉石 裕章

就職活動サークルは昨年10月に新設されたとても新しいサークルです。今までに、より良い進路に向け自分の可能性をひらくべく、自己アピールについて話し合いながら考え、面接練習をしたり(金6)、時事ニュースの知識を高めるために、毎朝当番制でニュース配信をしたり、社会人基礎力グランプリ2009(2月10日)に出場する活動をしてきました。面接は、キャリア支援課の皆さんが総出で特訓していただいています。

社会人基礎力大会では、フィットネスクラブ、(株)ルネサンスの会員獲得のために案を出して、東京の会場で発表しました。クラブのスタジオでできる中高年向けのボールゲームプログラムを開発し、その提案をするまでどのようなことに取り組んで、始める前と後では、どのように成長出来たのか発表しました。この活動をやってみての感想は、収益性にこだわることの難しさです。普段の学生生活では考えることのない人件費、広告手法とその経費、商品プログラムの開発費、どうしたら利益が出るか、さらにはそれを大きくできるか、企業側の要望も考慮しながら一つの提案にまとめるのです。実際にやってみると、利益を出すのは想像以上に難しいことが身を持って体験することが出来たので、とても勉強になりました。

結果は決勝大会に進むことはできませんでしたが、「奨励賞」をいただくことができました。

面接練習は、本番でもないのに予想以上に緊張して話せなくなったり、志望動機、自分の長所など、簡単なことと思えることが意外と人前になると発表できなくなったりします。特に多かったのは長く話せるが結局何が言いたいのかまとまっていないケースです。これは実際に人前で話してみても初めて気づくことなので、就職試験を受ける前に、何度も体験してほしい練習です。新しいサークルなので、活動内容はまだまだ不十分ですが、このサークルは、部活動やバイトが忙しい人でも続けられるサークルだと思っています。



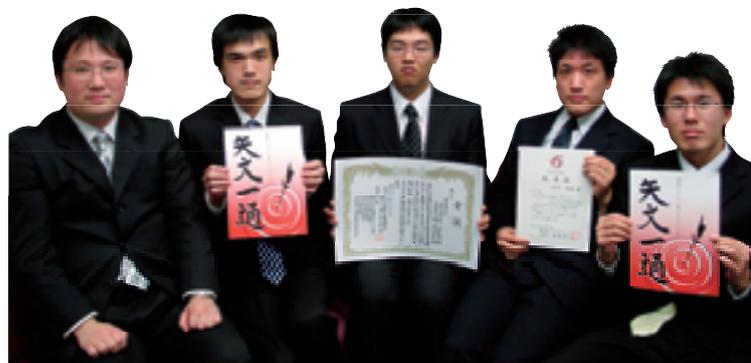
ソフトピア共同研究室

SOFTOPIA LABORATORY

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4丁目1番地の7
ソフトピアジャパンセンタービル5階507号室
TEL: 0584-77-1213 E-mail: info@softopia.mail-box.ne.jp
URL: http://softopia.gifu-keizai.ac.jp/

本年度は、「GCOMMSプロジェクト」による携帯電話のメールを利用した新しいCMSの開発と、それを活用した新しいビジネスモデルの創造について、様々な公募に挑戦し成果をあげました。財団法人ソフトピアジャパン主催の「平成20年度学生のITベンチャーアイデア」において、優秀なアイデアと認められ採用されました。また、名古屋市長、財団法人名古屋都市産業振興公社、名古屋市新事業支援センター主催のビジネスプランの公募において、佳作を受賞しました。

ソフトピア共同研究室は、創立10周年記念プロジェクトの一環として、「ロードキャストインターネット放送システム」の活用、岐阜エフエム放送株式会社と提携し、地域情報を中心とした様々なコンテンツの作成と配信を目指します。ソフトピア共同研究室では、ソフトウェアの開発、メディアの企画・制作、デジタルデザイン、ラジオパーソナリティをしてみたい学生を募集しています。



就職活動支援イベント開催!

100年に一度の不況といわれる中、就職戦線は極めて厳しいものがあります。キャリア支援課では、就職活動が本格化する3年生の就職支援のために、昨年から様々な企画・講座を実施し、厳しい就職活動を全力でバックアップしています。

業界・企業研究、志望企業への直接アプローチ

学内企業セミナーの開催

第一弾：2008年12月17日(水)
第二弾：2009年2月2日(月)・3日(火)

学内企業セミナーを今年度は12月と2月の2回開催しました(例年1回)。

第一弾は年内の2008年12月17日に、スポーツ系企業を中心に16社を招いて開催、学生130名余の参加がありました。就職活動本番のスタートです。

第二弾は、2009年2月2日・3日の両日で、参加企業は、約70社。県内外の様々な業種の企業を招いて、300名以上の学生が参加しました。当日は、まず5101教室に学生が集合し、出陣式を行いました。スキー・中部インカシの回転・大回転で準優秀したばかりの中田優一郎君の「就職活動がんばるぞー」を合図に全員で氣勢を上げて、企業ブースを設けた食堂棟に移動しました。

各企業の採用担当者様からも、熱意だけでなく質の高い学生と話ができた、との評価をいただきました。



参加した学生の声

参加企業が充実しており、業種、採用エリアとも幅広い。また、企業の強い採用姿勢が感じられたことがよかった。

実践直前講座

自己分析・PR、履歴書作成、面接対策

第一弾：2008年12月13日(土)・14日(日)
第二弾：2009年2月4日(水)～6日(金)

就職活動を勝ち抜いていくために必要な、自己PR力をアップする特別講座を2回にわたって開講。自己分析・履歴書作成、面接に重点をおき、各々が自信を持って就活のステップを登っていくよう指導しました。講師は名古屋の就職活動コンサルティング会社から派遣された専門スタッフ3名。1日7時間、自主的に残る人もいた濃密な内容で、受講生はやり遂げた達成感に満ちていました。

参加した学生の声

昔の自分を振り返ることが、自分の特徴を発見することにつながることに驚き、この自己分析によって自己PRが書けるようになりました。模擬面接では、お互いに練習することで友人へのアドバイスが自分の改善点の発見につながり、参加してよかったと思います。



▲学内企業セミナー



金融セミナー

2008年10月15日から毎週水曜日開講

(全6回講座)

金融業志望の学生58名が受講。目的意識が明確なだけに、全6回の講座は、集中力が切れることなく充実した講座となりました。

講座の講師は、金融機関の採用担当者の方で、金融機関はどんな人材を求めているか、経済新聞・金融用語の読み方などのレクチャーの他、「若手金融マンの奮闘」と題し、金融業に就職して活躍中の本学OBのパネルディスカッションも実施。最終日には、日本銀行名古屋支店・日興コーディアル証券名古屋支店の見学会を行いました。

参加した学生の声

面接で実際に求められる内容や人物像など、試験突破に向けた実践的な内容がとてためになった。特に、実際に金融業に勤めるOBの方のお話が、内定獲得までの流れや実際の仕事などわかってよかった。



メイクアップ・身だしなみ講座

就職活動では、人間性や仕事に必要な能力のほか「見た目」も重要です。合同説明会期間の2月3日午前中、メイクアップ・身だしなみ講座を開講しました。

メイクアップ講座は、女子学生を対象にファッションメイクではなく、就職活動・面接で好感がもたれるメイクに焦点を絞って指導。定員15名で、専門講師が、実技指導も含めて丁寧に一人ひとりのメイクを指導しました。

続いて、男子学生も参加して、スーツの着こなし講座を開講。就職活動では第一印象も大切な要素になるので、基本的なスーツの着こなし方、スーツ着用時の立ち振る舞いをはじめ、業界・業種の違いを踏まえたシャツやネクタイの色選び等にも話がおよび、会場に集まった40名の学生が、熱心に講義を聴き、個々に髪型や実際に身につけているスーツのチェックをしていきました。



参加した学生の声

就職活動向けにどんなメイクで行けばいいのかについて、ずっと悩んでいたけれど、どこで聞けばいいかわからず、今回のような講座をやってもらえて、本当に助かりました。説明会や面接に安心して臨めます。

Uターン就職への応援いたします！

県外の出身者への支援

キャリア支援課は、出身地に帰って就職したいという学生のUターン就職の希望も支援すべく、求人情報獲得や企業開拓のために、出身学生の多い地区で開催される代表的な企業セミナーなどに参加しています。

例えば、先日、静岡市主催の「地域産業・大学等交流会」に参加。あわせて理研軽金属工業株式会社など地元優良企業を個別訪問しました(2009年1月末現在)。

〈面談企業〉

静岡銀行、鈴与(株)、清水銀行、
(株)シャノン化粧品、静岡市役所、
東海澱粉(株)、太陽建機レンタル(株)、
(株)レント、(株)静岡産業社 等

今後は、愛知県(三河地区)、静岡(浜松地区)、石川、福井、三重、滋賀、長野、沖縄などのエリアについて、企業セミナーへの参加や企業訪問を行い、地元就職をめざす学生の支援に力を入れていきます。



教職総合演習・神谷ゼミ「研究成果報告会」

教職課程科目「教職総合演習・神谷拓ゼミ」では、保健体育教員免許取得をめざす学生が、教師に必要な資質の向上を目標に学んでいます。その一環として、優れた授業実践に学ぶことを目的に、大垣市立南中学校の寒田丈太郎先生が実践されている「ハードル走」の全単元を観察・調査し、その特徴の分析に取り組んできました。1月15日に、研究成果を発表するため、報告会を実施しました。

その内容を紹介すると、1. 学習指導要領におけるハードル走の位置づけなど歴史的背景の分析、2. 寒田先生の経歴の紹介、3. 寒田実践における教師行動や学習内容の分析（VTRと指導案の分析）、4. 寒田先生の実践を自分たちで試す「追試」による分析、5. 運動学の視点からの分析です。

当日は、ゲスト講師として、実践者の寒田先生にもおこしいただきました。学生たちは更なる学習課題を得る機会となったようです。



「経済学部基礎演習合同現地調査」実施

10月22日・29日、体験学習強化の一環として、経済学部基礎演習合同現地調査旅行を実施しました。8つの基礎演習に所属する1年生が、昨年4月に完成した日本最大級といわれる徳山ダムを見学し、建設の目的や経緯、旧徳山村の移転事情について、現地にて詳細な説明を受けました。



『現代コミュニティ論』研究成果発表会

1月13日、臨床福祉コミュニティ学科開講科目「現代コミュニティ論」で、受講生が取り組んできた研究成果発表会を行いました。

学生たちは、4グループに分かれ、半年間に及んで現代における地域福祉の実情を鳥瞰し、関心分野からテーマを設定して考察を深めてきた成果について報告しました。

授業担当の樋下田邦子講師からは、「問題だけを取り上げるのではなく、その社会的背景を広く探る視点が育ち、その成長を嬉しく思う。今後、専門職として働く福祉の現場で壁にぶつかったとき、学生時代に培った物事を鳥瞰するという視点を思い出して取り組んで欲しい」と結びました。



発表
テーマ

ユニバーサルデザインの実態を把握し実際の生活から考察する
地域福祉における民生委員の役割を考察する
地域福祉における障害者支援の実際を考察する
大垣市における地域福祉の歴史と現状を考察する

「障害者福祉論」介助犬ロッキーを迎える

10月30日、本学で学んだ故信田滋弘さんのお母様と介助犬ロッキーを、「障害者福祉論」の授業に、ゲスト講師としてお招きしました。

信田さんは、筋ジストロフィーの病と闘いながら、介助犬のロッキーと共に、本学で2年間学びました。障害を持つ青年と介助犬との関わりを直接聴き、また、介助犬に間近に触れることによって、学生が障害者福祉を深く捉えていく契機とすべく来ていただいたものです。

最初に、信田滋弘さんのお母様が、在学当時の信田さんとロッキーの様子や、信田さんが生前、介助犬について講演したときの講演録を紹介。そのあと、ロッキーによるデモンストレーションで、教室内や、廊下へ出てドアの開閉や、エレベーターの昇降ボタン押しなど行いました。最後に、山田武司准教授は、「信田くんは、障害者にやさしい社会をつくりたいとの思いで、体力の限界まで頑張って大学へ通った。その思いを引き継いで欲しい」と呼びかけられました。



教職総合演習・渡辺ゼミ 「グループ・プレゼンテーション」

教職課程科目「教職総合演習・渡辺貴裕ゼミ」では、学生たちがグループに分かれ約2ヵ月間かけて調査、準備してきた内容を発表し、ディスカッションを行いました。

学生たちは文献調査だけでなく、体罰に関するアンケートを100人にとったり、学校の先生にインタビューに行ったりと、さまざまな手法で調査を行いました。また発表に関しても、配付資料やプレゼンソフトによるものだけでなく、教師とモンスターペアレントとのやりとりを演じたり、給食の人気メニューを再現して食べてもらったりなど、さまざまな工夫が凝らされました。さらに発表後のディスカッションを通して、内容の理解だけでなく、調査・発表の深め方や指導のノウハウを得る機会となりました。



FC岐阜の今西GMをゲスト講師に講義

FC岐阜の今西ゼネラルマネージャーをゲスト講師として招聘し、「特殊講義A」の授業を3週にわたり行いました。

本学では、5月25日にFC岐阜と連携協定を締結しましたが、連携事業の一つに、スポーツ振興を担う人材の育成を目的としてFC岐阜は本学の講義運営に協力することとしており、その一環として実施したものです。



講義
内容

- 第1回 「Jリーグクラブのマネジメント」
- 第2回 「Jリーグクラブのチームマネジメント」
- 第3回 「Jリーグクラブの地域貢献」

キッズアスリート・プロジェクトに アシスタントとして参加

子どもたちのスポーツ離れや体力低下が問題となっている今日、日本陸上界を代表するアスリート達による「キッズアスリート・プロジェクト“夢の陸上キャラバン隊”」が全国各地で開催されています。

子どもたちの目の前で実際に競技を行い、スポーツの基本である「走る・跳ぶ・投げる」楽しさ、そして陸上競技の凄さ、面白さを伝えるのが「キッズアスリート・プロジェクト」の目的です。

このプロジェクトが、11月11日に、岐阜県美濃加茂市立山手小学校で開催され、本学の陸上部員10名がアシスタントとして活躍しました。当日はアスリートのサポートや小学生の皆さんのお世話をさせていただきました。



「モーモーカップ2009」開催

1月10日、「フラッグフットボール大会『モーモーカップ2009』」が開催されました。

「保健体育科教育法4」の受講生たちは、授業でフラッグフットボール指導の系統性について学んできましたが、さらにその「学び」を発展させて大会の企画・運営にあたりました。

受講生たちは、参加の呼びかけを精力的に行い、目標とした100名近くの学生が参加するというビッグ・イベントとなりました。参加者は1チーム4～5人に割り振られ、総勢20チームがリーグ戦形式で試合を進めました。

受講生たちは、この取り組みを通して、スポーツイベントの企画・運営の実践的な経験を積んだようです。



「十万石まつり」みこしパレードに参加

大垣藩十万石の城主を祭る常葉神社の例祭である「十万石まつり」が、10月12日、中心市街地一帯で盛大に催されました。今年も、大垣市制90周年を記念し、90基のみこしが駅前通りを練り歩きました。

本学も、学生、教職員合わせて総勢80名が参加し、さまざまなパフォーマンスで祭りを盛り上げました。本学聴講生で、2008ミスインターナショナル日本代表ファイナリストの CHIAKIさんが掲げるプラカードを先頭に、学生による威勢の良いかけ声、沖縄県人会によるエイサー、ボート部の合宿所完成披露、吹奏楽同好会の演奏など、元気な岐阜経済大学をアピールしました。

来賓を前に、ボート部の清水晶也さんが口上で、ボート部合宿所建設のお礼と大学祭のPRのあと、卒業の際には、就職もよろしくお祈りしますと述べると、沿道からは、ドッと笑い声が沸き起こりました。市民の方からは、「踊りや演奏で、学生さんらしいパレードだ」と激励の声も寄せられました。



施設 紹介

創立40周年記念第2期事業として、課外活動施設の建設、教育研究施設設備の拡充を次の通り行いました。

①ボート部合宿所の建設

・2008年11月10日に、岐阜県海津市長良川国際レガッタコース隣接地にボート部合宿所を建設しました。鉄骨造2階建、延床面積890.76㎡、48人収容の建物になります。

②野球場の再整備

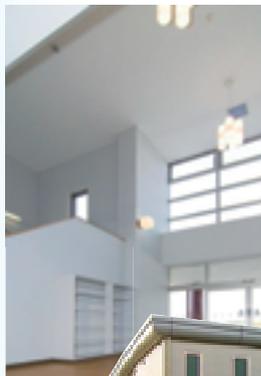
・1985年に造成した野球場の再整備を実施しました。
・内外野を水捌けのよい土へ入替え、夜間でも練習ができるように照明柱を6基設置しました。

③無線LAN環境の整備

・ユビキタスネットワーク時代を迎え、既存の情報実習室だけでなく、学内の主要な教室からインターネットが利用できる環境を整備しました。

④経済学部研究室の移設

・老朽化した11号館経済学部研究棟を閉鎖し、8号館3階・4階を経済学部研究室へ移設改修しました。



◀ボート部合宿所 外観・エントランス



▲野球場 夜間照明



「ベンチャーキッズチャレンジ事業」で活躍

岐阜県商工会連合会主催による「ベンチャーキッズチャレンジ事業」で、本学経営学部長の野松敏雄教授が校長を、野松ゼミの学生7名がトレーナーを務めました。

この事業は、小学生4～6年生を対象に、将来の起業家を育成しようと、岐阜県商工会連合会が実施しているもので、今年も、各務原市と瑞穂市を会場に開催されました。この事業では、会社づくりのイロハを学んだあと、実際に会社をつくって商品を製作し販売するまでを行います。小学生の子どもたちが5～6人ほどに分かれて手作り商品を開発。

11月16日には、瑞穂市役所南庁舎で行われた「みずほ・ふれあいフェスタ」において、製作した商品を販売しました。当日は小雨のなか、ベンチャーキッズたちは、予め作っておいた広告チラシを配付して必死に呼び込み、熱心に商品の説明を行いました。どのグループもほぼ完売し、収支は「黒字」となったようです。



「大垣青年重役会研修会」開催

大垣青年重役会が、本学教員を講師に毎年、研修会を開催していますが、今年度は「めざそう! 未来型企業! ～地球と環境に豊かさと幸せをもたらす企業～」を年間テーマに、現在激変している環境・経済・エネルギー等の問題を踏まえ、変化に対応できる強い企業づくりを学んでいます。本学で開催した研修会では、西美濃に住む我々が地域・地球環境に配慮しつつ、企業活動を行うにはどのようにしていけばいいのか講義を通し考えていくことを狙いに3回開いています。



演題

郷土力を培う
～地域環境から地球環境へ～

講師

森 誠一 経済学部教授

第1回 西美濃大垣の環境特性とは?なぜ守るのか?

第2回 地球環境の現状 我々はとりあえず何が出来るか

第3回 地域環境の特性を活かしたまちづくり

「たかやま市民カレッジ」開講

本学と地域連携協定を結び岐阜県高山市で、3月に「たかやま市民カレッジ岐阜経済大学連携講座」が開講されます。高山市教育委員会主催、本学共催によるもので、今年で6回目の開催となり、次のとおり2回シリーズで本学の教員が担当します。

地域の方の「学び」のお役に立つことを以って、本学の教育研究の成果を地域に還元できればと願っています。

月日	テーマ	講師(岐阜経済大学)
3/14(土)	経済が成長する理由(わけ)	黒川 博 (経営学部教授)
3/21(土)	インターネットの安全利用 ～犯罪に巻き込まれないために～	猪平 進 (経営学部教授)

大垣情報ネットワーク研究会 10周年記念シンポジウム開催

大垣情報ネットワーク研究会が、創設10周年となることを記念して、12月12日ソフトピアジャパンセミナーホールにてシンポジウムを開催しました。

大垣情報ネットワークは、地元情報系企業5社(セイノー情報サービス、共立コンピュータサービス、タック、ピーアイシステム、河合石灰工業)に、財団法人ソフトピアジャパン、大垣市に岐阜経済大学を加えた産官学のコンソーシアムです。

当日は、文化経済学からまちづくりを考える基調講演に続き、「ソフトピアジャパン」のこれまでを振り返り、価値や課題あるいは今後のあり方について考えるパネルディスカッションが行われました。会を構成する企業や団体の関係者に加え、地元自治体関係者や一般市民も多数参加し150名余の盛況な催しとなりました。



第1部 基調講演 「文化によるまちづくりとIT」

〈講師〉 山田 浩之 氏 (京都大学名誉教授)

第2部 パネルディスカッション

「ソフトピアジャパンの再発見 そして 新たな鼓動」

「基礎から学ぶCAD講座」開講

2月6日から20日までの10日間、(財)岐阜県産業経済振興センターの委託を受け、大垣共立銀行・共立総合研究所の運営協力を得て、「基礎から学ぶCAD講座」を開講しました。この講座は昨年度3月に初めて委託を受け、今年度は昨年9月に引き続いての開催となります。

この事業は、子育てが一段落した女性やフリーター等に対して、ものづくり企業への就職に必要なスキルを学ぶ機会を提供し、ものづくりの基礎知識と3次元CADのオペレーターの能力を併せ持ったものづくり事務のスペシャリストの養成を目指す講座です。

162名の応募の中から選ばれた20名の社会人の方が、連日行われた製図やCAD講習を熱心に受講され、CADに関する関心の高さが窺えました。



こんにちは! 高校生の皆さん

海津明誠高校の皆さん



10月22日に、海津明誠高校にて高大連携講座「学び塾」を行いました。これは、同校1年生の生徒さんを対象に、大学の授業を体験することによって、今後の学習の動機付けとなることを願って実施したものです。学ぶ楽しさを伝えるべく、

本学の14名の教員がそれぞれの専門から9講座にわたり講義を行い、220名の生徒さんが熱心に受講されました。

●講座名

英会話講座	Everyday English Communication
情報学特論	Photoshopを用いた画像編集
外国文学特論	アメリカの文学の事始め
外国文学特論	中国の故事成語を読む
経済学特論	お金について考えよう! —お金の歴史と役割—
経済学特論	経済ニュース入門 —日経平均株価とTOPIXってなに?—
経営学特論	生涯賃金について知る
経営学特論	企業の経営について
福祉学特論	格差社会ってなに —福祉の視界を広げよう—
福祉学特論	あなたは今日から認知症サポーター —オレンジリングは認知症高齢者の“人間杖”の証—
スポーツ学特論	スポーツマンのこころについて考える
スポーツ学特論	なぜ学校に運動部活動はあるのか? —教育学とスポーツ経営学の視点から考える—
環境学特論	西美濃の環境特性 / 歴史・文化と自然との関わり
法学特論	こんな時どうする、身近な民法(不法行為・契約)

大垣桜高等学校の皆さん

「介護福祉士」の資格を取得し、将来は地域社会のマンパワーとなることを目指す大垣桜高校福祉科の生徒さんに、本学から臨床福祉コミュニティ学科の5名の教員が「社会福祉基礎」に関する講習会を行いました。福祉科3年生を対象にした授業では、「公的扶助論」、「障害者福祉論ソーシャルワーク」、「高齢者福祉論」の3科目を、福祉科1年生を対象にした授業では、「スクールハラスメント」「フィールドワークと全体のまとめ」の2科目を担当しました。受講された生徒さんからは、次のような感想が寄せられました。

- ・社会福祉について学び、自分の考えを深めることができた。
- ・大学で行っている授業を大学生の方と受けてみたい



高校生のための街なかオープンカレッジ

高校生の皆さんを対象に、本学と岐阜大学地域科学部の連携プロジェクト「街なかオープンカレッジ」を岐阜市・大垣市の中心市街地で開講します。いろいろな分野から学んでいく意味や、大学で学んだその先に社会や地域で何が待っているのかなど、2大学の教授陣が、高校生の皆さんにお伝えします。

●大垣/マイスター倶楽部

3/26 (木)	午前	市場経済と人間の共感 —アダム・スミス、ケインズを読み直してみよう—
	午後	コミュニティと商店街の未来 —芸術と文化によるまちの創造戦略—

●岐阜/あい愛ステーション

3/27 (金)	午前	岐阜の企業の魅力に迫る 企業で働くということ —インターンシップと就職—
	午後	環境とサステナビリティ —エコロジーとエコノミー—

「岐阜県高等学校長協会 家庭部会教員研修会」開催



12月4日、「岐阜県産業教育振興会生活産業教育部会並びに高等学校長協会家庭部会教員研修会」が本学で開催され、県内の生活産業学科設置校の家庭科の先生方28名が来学されました。

●学生による大学紹介「私の大学生活」

経済学部コミュニティ福祉政策学科4年 堀 あゆ美 さん

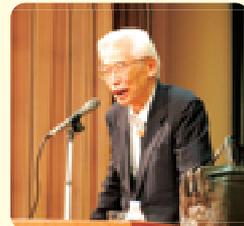
●生活経済学講義 「ペイド・ワークとアンペイド・ワーク」

〈講師〉 斎藤 悦子 経済学部教授

●施設・設備の見学

・図書館 ・介護実習室…「介護技術演習I」講義見学

学会主催公開講演会 現代経済学を学び、 新しい生き方を考えよう



京都大学名誉教授・池上惇氏による学術講演会が、10月15日に開催され、一般市民・本学学生および教職員約400名が聴講しました。

文化経済学をはじめ、様々な分野で活動される先生らしく、「経済学は消費することではなく、自分へ投資することである。生涯にわたって自分を高めていくことが大切である。」「地域固有の文化を大切に、みんなで協力して育ててほしい」といった独自の考えを展開され、人としての生き方について熱心に講義されました。

一般市民・学生問わず、「経済学に対する考え方が変わった」「いくつも心に残る言葉があった」「自分のためになる投資をこれからしていきたい」等の感想が寄せられました。

地域経済研究所主催公開講演会 住民一人ひとりが輝く 『地域づくり』の経済学



アメリカの金融不安や石油資源の争奪など、経済のグローバル化の進展により、私たちの生活は不安定さを増しています。企業の倒産や自治体の財政破綻も増えるなか、どうしたら住民一人ひとりが元気に明るく暮らせる地域社会を築けるのでしょうか。

本講演会では、全国を歩きながら住民本位の地域づくりを指南する京都大学教授の岡田知弘氏により、「地域づくりに役立つ経済学」をご講演いただき、「地域と共生する大学」である岐阜経済大学がめざす経済学を紹介しました。

鎌田寛 客員教授による 公開講演会



鎌田寛先生岐阜経済大学客員教授就任
臨床福祉コミュニティ学科開設記念
『命を支えるということ』～「がんばらない」
けど「あきらめない」「なげださない」～

9月6日、講師に岐阜経済大学客員教授鎌田寛先生をお迎えし、『命を支えるということ』～「がんばらない」けど「あきらめない」「なげださない」～と題してご講演いただきました。

来場された方からは、「先生のお人柄を感じ、心が温かくなった。」「義母の介護をしていますが、気持ちが楽になりました。」「人のために何かをという気持ちを忘れずにいたい。」などの声を多くいただきました。今後も本学では、本学で福祉を学ぶ学生、これから学びたい高校生、また地域にあって福祉に関心のある市民の方々に、先生のお力添えをいただく予定です。

2009年度 資格講座開講講座

- 2級FP技能士(AFP) 受講料35,000円
開催期間 5/9~12/19 (受付 4/8~4/28)
- 3級FP技能士 受講料15,000円
開催期間 5/9~8/8 (受付 4/8~4/28)
- 日商簿記2級 受講料30,000円
開催期間 6/3~2/27 (受付 4/8~5/20)
- 日商簿記3級 受講料15,000円
開催期間 5/13~11/14 (受付 4/8~4/28)
- 販売士2級 受講料16,000円
開催期間 8/29~9/12 (受付 4/8~8/12)
- 販売士3級 受講料11,000円
開催期間 5/16~6/13 (受付 4/8~5/1)
- 保育士試験対策 受講料40,000円
開催期間 4/22~7/30 (受付 4/8~4/17)
- ビジネス能力検定2級 受講料16,000円
開催期間 9/18~10/17 (受付 4/8~9/4)
- ビジネス能力検定3級 受講料11,000円
開催期間 5/9~5/30 (受付 4/8~4/24)
- ニュース検定3級講座 受講料5,000円
開催期間 5/13~6/20 (受付 4/8~4/28)
- 公務員・教員試験対策Ⅰ 受講料40,000円
開催期間 5/13~12/16 (受付 4/8~4/28)
- 公務員試験対策Ⅱ 受講料30,000円
開催期間 5/8~7/24 (受付 4/8~4/28)

※受講料はテキスト代別

AFP合格体験記

集中力を持続させ、
最後までやり抜く
ことが大事



経済学科4年 久保田 慎二

私はAFPの知識を将来役立てようと考え、資格取得を目指して、3年次よりファイナンシャル・プランナー(FP)講座を受けました。AFPを取得するにあたって最も大変だったのが、覚える内容が大量にあったことでした。FP講座は5月から12月までと長期間にわたって行われます。その中で、税金や不動産など、今まで生活してきた中であまり馴染みのない専門知識を大量に覚えなければなりません。このことが非常に苦痛を伴い、何度も挫折しそうになりました。しかし、絶対に資格を取得したかったので、講義を休むことなく受け、また、試験対策も時間のある限り行いました。

AFPに合格するためには、集中力を持続させ、最後までやり抜くことが大事です。私がAFPに合格することができた一番の要因は、最後まであきらめず、集中して取り組んだことだと思っています。

今後、AFPを取得したいと考えている人は、決してあきらめず、合格を目指してがんばってほしいと思います。

基本情報技術者試験記

自分の強みを、
未来に投資を!



経営情報学科3年 福本 隆文

私がこの検定を取ろうと思ったのは、スポーツ経営から経営情報に転学科したときに、情報系の知識が周りに比べて弱いと感じ、なにか強みが欲しかったからです。最初は独学で取ろうと始めましたが、実際に勉強してみると覚えることが多くうまく進みませんでした。そんな中見つけたのが大学の対策講座でした。

半年間みっちり講師の方に教えていただき、さらにテストに合格すると午前問題が免除されました。合格できた最大の要因はこの午前問題免除でも長い時間なのでとても大きかったです。その他にも大学の授業で検定に関係した授業を受けたり、ゼミの勉強をするなど色々な対策をしました。ほとんどの知識がない状態から一年少しの勉強で合格できました。合格率はかなり低くなっていますが、実際はほとんど勉強しないうちで受ける人がいるので、まじめに勉強している人の合格率は高いと思います。興味がある人は是非チャレンジしてみてください。努力さえあれば合格できる検定です。

安定した経済生活を支援します

本学では、家庭の事情などにより学費の納付が困難であったり、自分で学生生活費を補わなければならない皆さんにとって、安定した経済生活を設計できるように、様々な支援制度を整えています。

経済的事情のある高校生を対象に、 特別修学支援奨学生を受け入れ

本学では、経済的事情により大学への進学が困難な高校生を対象とする奨学生を募集しました。これは今年度から導入した制度で、次のとおり経済困難な状況である要件に該当し、高等学校長が推薦する高校生を、奨学生推薦入学制度により修学を支援するもので、入学科の40%および授業料の55%が減免されます。この制度で入学すると、4年間の学費は153万4千円が減免され、国立大学法人より負担額は軽くなります。

今年度20名がこの制度の適用を受け入学する予定です。

出願資格は次の①または②のいずれかに該当し経済困難にあると認められる方です。

- ①出願前年の父母の合算所得が400万円以下の者。
- ②出願前年の父母の合算所得が500万円以下の者で、左記のAまたはBのいずれかの生活条件にある者。
 - A. 主たる生計維持者が失職、事故、病気または自然災害などにより、緊急応急の経済的困難な状況にある者。
 - B. 母子または父子家庭にある者。

表紙の人

ゼミナール大会で
優秀ゼミに選ばれたゼミ生たち
と卒業論文発表会風景
詳しくは、本誌4・5頁をご覧ください

学費給付制度「岐阜経済大学奨学金I種」

成績・人物ともに良好で、経済的理由により修学が極めて困難な学生に対して学業継続の援助をするため、本学独自の奨学金を給付しています。この「岐阜経済大学奨学金I種」の適用者は、授業料の半額を給付(年額32万5千円、返還不要)されます。今年度は36名の在学生がこの制度の適用を受けています。毎年4月に募集しますが、親の失職や死亡など、家計急変の場合は年度途中でも適用されます。

学費サポートプランを導入

学費サポートプランは、(株)オリエントコーポレーション(以下オリコ)と岐阜経済大学が提携し、保護者の一次的な経済的負担を軽減するため簡単な手続で利用できる学費分納制度です。これは入学金、授業料などの学費をオリコが立て替え保護者より毎月分割で口座振替により納付いただく制度です。分割の方法も、「普通分納」だけでなく、在学中は分納手数料のみを納付する「ステップアップ分納方式」、学生が卒業後返済を引き継ぐ「親子リレー分納」が選択できます。各種奨学金制度、国の教育ローン等の制度とあわせて活用ください。

ボーグ・ポール准教授に博士授与

ボーグ・ポール経済学部准教授は、2008年11月30日付で、ロンドン大学教育研究院(University of London, Institute of Education)より、博士(Ph.D.)の学位を授与されました。論文課題名は、「The JET Programme as a Manifestation of Internationalization in Japan」(和訳:「JETプログラム/日本における国際化の現れ」)